学校番号	109

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	教育図書「ウェルビーイングにつなぐ 家庭基礎」						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ(学習方法等)

○家庭生活に関心をもち、積極的に取り組みましょう
・生活の様々な現象や課題をワークショップや演習等を通して考え、理解を深め知識を身に付けます。友だちの考えを知り、多様な考え方を学び、自分の考えをもちましょう。
・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身に付けます。
・学んだことを自分の生活の問題として捉え、よりよい生活をめざします。

2　学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を通して，様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などについて，生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。
(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を養う。
(3)様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
2年1学期	生涯の生活設計	・自分の将来をイメージしよう！ ・自立への一歩を踏み出そう ・家族・家庭って何？ ・将来の自分と家庭を想像しよう	a:・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 ・これからの人生で起こりうるライフイベントについて理解している。 ・生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解している。 ・自立の必要性と、青年期の課題や生活課題に対応した意思決定の大切さを理解している。 ・家族関係の変化や男女共同参画社会、ワーク・ライフ・バランスなどの課題について理解を深めている。 ・家族に関する法律(婚姻、夫婦、親子、相続等)や社会制度について理解している。 ・新聞や書籍、インターネットなどを活用したり、身近な知人へのインタビューをしたりすることにより、家族について必要な資料を収集したり、調査したりすることができる。 b:・自分自身のライフプランを考え、工夫して設計している。 ・自分自身について客観的に分析し、自分の目指すライフスタイルの実現に向けて問題を見いだして課題を設定している。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、人生で起こりうるライフイベントについて自分の将来と照らし合わせながら主体的に考えようとしている。 ・生涯発達の視点から、青年期の過ごし方について問題を見いだして課題を設定している。 ・男女が相互に協力して家庭や社会を築くことの重要性について考	定期考査 実技課題	ワークシート	授業観察 実習レポート

			え、工夫している。 ・これからの家族・家庭のあり方について、課題解決への実践を評価したり、改善したりしている。 ・これからの家族・家庭のあり方について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。 c:・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯発達の視点で各ライフステージごとの発達課題に関心をもち、学習活動に取り組もうとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について問題を見いだして課題を設定し、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 ・男女が相互に協力して家庭や社会を築くことについての課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭についての課題解決に係る一連の活動を振り返って改善し、地域社会に参画しようとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭の課題について自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			
	食生活と健康	・私たちは何を食べている？ ・食品を選ぼう ・今と未来の体をつくろう ・持続可能な食生活を目指そう ◆調理実習 ・これからも食事を楽しむために	a:・食と健康の関わりについて知り、食事の大切さを理解している。 ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質について理解している。 ・栄養素の特徴と、それを多く含む食品について理解している。 ・日常用いられる食品の栄養素的特質、調理上の性質について理解している。 ・食品の表示の意味を理解している。 ・食中毒や食物アレルギーについ	定期考査 実技課題	ワークシート	授業観察 実習レポート

			て理解し、健康・安全を考えた調理をすることができる。 ・日常食の調理について、栄養バランスのよい献立作成、食材の選択、調理、盛り付け、マナー、配膳などについて総合的に理解している。 ・料理の作り方を理解し、基礎的な技術を身に付け、効率よく調理することができる。 ・持続可能な食生活のあり方を理解し、資源、エネルギーに配慮した食品の購入、調理、保存ができる。 b:・食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について、問題を見いだして課題を設定している。 ・食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について、解決方法を検討し、実践に向けた計画を考え、工夫している。 ・食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について、実践を評価したり、改善したりしている。 ・食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。 c:・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、地域社会に参画しようとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康			

			について、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			
2年2学期	子どもの生活と保育	・子どもはどう生まれ育つ？ ・子どもの生活にどうかかわる？ ・子育て社会の課題とは？	a:・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を理解している。 ・生命の尊さを認識するとともに、保育における親やおとなの役割を理解している。 ・子どもは生活の中で人と関わることを通して成長することを理解している。 ・子どもを取り巻く社会の変化や子育ての課題について理解を深めている。 ・子どもの権利と福祉について理解している。 ・乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。 ・少子化、育児不安、児童虐待、子どもの貧困など、現代の子どもを取り巻く環境の変化と課題について考え、新聞・書籍・インターネットを活用し、資料の収集・整理ができる。 b:・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を捉え、子どもにとってよい環境について考え、意見をまとめたり、発表したりしている。 ・親の役割や子どもを生み育てることの意義や望ましい保育環境について考え、まとめたり、発表したりしている。 ・子どもの健やかな発達を支えるために、子どもとの適切な関わり方について問題を見いだして課題を設定している。 ・子どもの健やかな発達を支えるために、子どもとの適切な関わり方について、多角的に考え、工夫している。 ・子どもの健やかな発達を支えるために、子どもとの適切な関わり方について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。	定期考査 実技課題	ワークシート	授業観察 実習レポート

			c:・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子どもとの関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子どもとの関わりと保育・福祉について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・自分が将来保育に関わる存在であることを理解し、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子どもとの関わりと保育・福祉について、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			
	衣生活と健康	・衣服はどうやってつくられている？ ・衣服の計画・管理を知ろう ・今後の衣生活を考えよう ◆被服実習	a:・被服の機能について理解している。 ・衣服が健康に与える影響について理解している。 ・ライフステージや目的に応じた衣服について理解している。 ・三原組織や編物の構造を理解している。 ・平面構成と立体構成の特徴を理解している。 ・被服の入手、洗濯、保管などの被服管理について理解し、管理できる技術を習得している。 ・洗濯、アイロンかけ、補修など、衣服の手入れについての基礎的な技術を身に付けている。 ・資源の有効利用の観点から、購入、活用、手入れ、再利用、廃棄まで考えた被服計画の必要性について理解している。 ・テクノロジーを活用し、環境に配慮した、衣服に関わる新しい取り組みについて理解している。 b:・衣服と健康、被服の機能性や快適性、衣服と環境などについて、問題を見いだして課題を設定している。	定期考査 実技課題	ワークシート	授業観察 実習レポート

			・衣服と健康、被服の機能性や快適性、衣服と環境などについて、解決方法を検討し、実践に向けた計画を考え、工夫している。 ・衣服と健康、被服の機能性や快適性、衣服と環境などについて、実践を評価したり、改善したりしている。 ・衣服と健康、被服の機能性や快適性、衣服と環境などについて、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。 c:・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、地域社会に参画しようとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			
	住生活と住環境	・私たちの暮らす住まいとは？ ・快適・安全に暮らそう ・持続可能な住まいのために	a: ・住まいの空間と生活との関わり、住まいの役割について理解している。 ・住居の平面図を読みとることができる。 ・ライフステージごとの住まいの変化や、ライフスタイルと住まいの関係を理解している。 ・快適に暮らすための工夫について理解している。 ・自然災害や家庭内事故などに対応した安全な住宅・住生活を理解している。 ・環境に配慮した持続可能な住まいの取り組みについて理解している。 ・住生活の管理や耐久性の高い住まいの実現に必要な技能を身に付	定期考査 実技課題	ワークシート	授業観察 レポート

			ける。 b: ・住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりなどについて、問題を見いだして課題を設定している。 ・住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりなどについて、解決方法を検討し、実践に向けた計画を考え、工夫している。 ・住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりなどについて、実践を評価したり、改善したりしている。 ・住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりなどについて、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。 c: ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、地域社会に参画しようとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			
2年3学期	消費生活と経済計画	・何をどうやって買う？ ・消費者問題と消費者を守るしくみとは ・消費者の権利と責任を考えよう ・社会経済につながる家計とは？ ・将来の経済計画を考えよう	a:・消費行動における意思決定の重要性について理解している。 ・契約するときの注意点、契約における未成年と成年の法律上の責任の違いについて理解している。 ・多様な契約の仕組みや使い方を理解している。 ・クーリング・オフ制度の他、契約がキャンセルできる場合を理解している。 ・国民生活センターや消費生活センターのホームページから、財やサービスに関する正確な情報、被害	定期考査	ワークシート	授業観察 レポート

			防止策についての情報を適切に収集・整理できる。 ・消費者の権利と責任、消費者市民社会について理解している。 ・家計と社会経済、給料の仕組み、家計の構造（可処分所得や非消費支出など）について理解している。 ・人生にかかるお金、リスクと備えについて理解し、資金計画を計算できる。 b:・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、問題を見いだして課題を設定し、課題の解決に向けて考え、工夫している。 ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、実践を評価したり改善したりして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、問題を見いだして課題を設定し、課題の解決に向けて考え、工夫している。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、実践を評価したり改善したりして、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。 c:・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画や、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画や、消費行動と意思決定について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、地域社会に参画しようとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における			

			経済の計画や、消費行動と意思決定について、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			
	高齢期の生活と福祉	①高齢期ってどういう時期？ ②高齢化する日本を生きる	a:・高齢期の心身の特徴について理解している。 ・高齢者を取り巻く社会環境について理解している。 ・高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。 ・生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。 b: ・高齢者の自立生活を支えるための、家族や地域及び社会の果たす役割について、問題を見いだして課題を設定している。 ・高齢者の自立生活を支えるための、家族や地域及び社会の果たす役割について、実践に向けた計画を考え、工夫している。 ・高齢者の自立生活を支えるための、家族や地域及び社会の果たす役割について、実践を評価したり、改善したりしている。 ・高齢者の自立生活を支えるための、家族や地域及び社会の果たす役割について、課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。 c: ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、地域社会に参画しようとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	定期考査	ワークシート	授業観察 レポート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度